



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2005. 8 月号

特別展「平塚のお祭りーその伝統と創造ー」の見どころ

山車、万燈、大幟、神輿など存在感のある大型の展示物が多い中で、一見地味ですがよく見ると平塚の祭文化の特色がうかがえる、豊田西町自治会所有の太鼓道具を紹介します。

太鼓の革とボンド 西町の縮太鼓の革は縫い目にボンドが塗ってあります。豊田の太鼓は硬く締まった高音を出すために、本番前に縮太鼓の革を限界ぎりぎりまで締めます。ときに限界を超えて「ぼこっ」と革が破けてしまうこともあります。ですから締めるときは、細心の注意を払いボルトをゆっくりと回していきます。ボルトを回す手が軽く感じたら要注意、革の繊維が切れ始めた危険信号です。耳を近づけて「チリチリ」と音が鳴っていたらやはり危険。その部分はもうそれ以上締めず、縫い目にボンドを塗って補強しておきます。革は縫い目の繊維が切れやすいのです。ボンドを塗って革が丈夫になったからといって締めすぎると、今度はケヤキの胴にヒビを入れてしまうことすらあります。ヒビが入りホチキスで補修した胴も展示してあります。

ささくれた太鼓の革 縮太鼓の革を見ると、胴の縁に当たる部分がささくれています。皮をばんばんに張って、ぶつくりと盛り上がる角の部分です。平塚ではコバと呼びます。ささくれているのは、硬質のバチをコバに当てるためです。同じ平塚でも田村囃子の太鼓はコバを傷めません。それはバチを立てウラッポ（先端）で打つからです。ところが平塚太鼓は、バチを寝かせ気味に面で打ちます。コバに当たらない程度にバチを寝かせてビシッと打つのが良い響きになるといわれていますが、どうしてもコバを打って革とバチを痛めてしまいます。

破れた革 あまりコバを傷めると革を破くおそれがあります。破れた革も展示しています。また、革は限界まで伸ばすと翌年は鳴りが落ちるそうです。だから豊田では毎年革を数枚新調して、お祭りに備えています。平塚・伊勢原・秦野の太鼓の革の消費量は関東一との噂もあります。お祭りの一夜限りの勝負にすべてを注ぎ込んでいるのです。

折れたバチ 平塚太鼓は革の消費とともに、バチの消費も群を抜いて多いようです。平塚特有の水平打法がその原因で、コバに強く当てるためです。また革を締めるほど折れやすくなります。折れたバチも数本展示しました。折れなくてもコバを打つとバチを傷めます。傷めたバチは革を痛めます。そのため、西町では前年のバチは使いません。

マイバチ 昔は杉バチなので頻繁に折りましたが、今はモミジや樫など折れにくい素材を使う所もあります。西町ではお祭りの勝負の時にだけ樫バチを使います。樫は打音が強いのですが、欠点は衝撃を吸収しないので手に負担がかかることと、革を痛めることです。樫で思い切り打つと骨まで響くといい、手袋をはめて打ちます。太鼓の革がささくれているのは樫でコバを打つためです。西町では、樫バチの握りの部分にガーゼを何重にも巻いて衝撃を和らげるとともに、バチが手から抜けない工夫を施しています。樫の他、檜の芯持と木目の通った檜のバチを太鼓連で手作りし、各人がマイバチとして所持し、場面に応じてバチを使い分けます。バチに名前を記して山車後部のマイバチケースに収め、他人のバチは使ってはならない決まりになっています。

「相州の喧嘩太鼓」の伝統は今も健在です。展示を通し、平塚の太鼓にかける情熱とこだわりの一端を感じ取っていただければ幸いです。（浜野）



左：寺田縄日枝神社神輿と入野八坂神社神輿
右：豊田西町の樫バチ

●夏のミニ文化祭

場所：2階情報コーナー

新しい試みである「ミニ文化祭」は、小学生から大学生までの若い世代の方々に、地域の自然や文化について調べたことを発表していただく展示会です。第1回として、東海大学と向上高校の方に展示をお願いできることになりました。ふるってご来場ください。

◎「湘南海岸の植物たち」 東海大学教養学部藤吉研究室 7月30日(土)～8月19日(金)

四方を海に囲まれた島国である日本には、美しい海岸線が広がっています。海岸は、陸の生き物と海の生き物とが分かれる境界線であり、直射日光や塩分に絶えずさらされるため、陸の生き物にとっては、大変きびしい環境と言えます。それにもかかわらず海岸には、そのような環境条件にうまく適応した多くの植物が生育しています。

今回、私たちは、身近な湘南海岸の海浜植物を調べてみました。東西に約20km続く湘南海岸は、海水浴の発祥の地で、夏には多くの観光客でにぎわう日本でも有数の砂浜海岸です。全てが自然の姿のままの海岸ではありませんが、様々な海浜植物が生育する美しい景観が残されており、ハマヒルガオやハマボウフウなど、多くの砂浜に特有な植物が確認されました。

展示では、湘南海岸における海浜植物の分布や生育状況、厳しい環境に適応する戦略などを、ポスターや標本を用いて説明します。私たちの展示を通して、それらの良さや大切さを感じていただけたらと思います。



群生するハマヒルガオ

◎「ま水にすむ貝の研究から」 向上高校生物部 8月23日(火)～9月10日(土)

生物部では、1999年に神奈川県内で初めて外来種のタイワンシジミの生息を確認して以来、相模川全流域で生息調査を実施してきました。2004年からは『桂川・相模川流域協議会』と合同で、相模湖より上流部の桂川流域及び山中湖の調査を継続しています。

その結果、相模川流域では122ヶ所中58ヶ所でタイワンシジミの生息が確認されました。山梨県内でも、相模川の源流である山中湖にタイワンシジミが生息していました。一方、在来種であるマシジミの生息が確認されたのは、厚木市と城山町の2ヶ所だけで、近い将来マシジミがいなくなってしまうのではないかと心配されます。

外来種のタイワンシジミが分布を広げた経緯は、相模川に侵入したタイワンシジミが西部用水路や左岸用水路といった主要な農業用水路で繁殖し、下流側の河川に分布を広げたことです。また、ホタルの幼虫やカワナナといっしょに、外来種とは知らずにタイワンシジミが放流されていることもわかりました。

静かに分布を広げるタイワンシジミと、調査の際に偶然出会い、20年ぶりの生息確認となったニホンミズシタダミという小さな巻貝について紹介いたします。



淡水貝の調査風景

アインシュタインの夢

1905年は物理学の奇跡の年、と呼ばれています。その年は相対性理論で有名な科学者、アルベルト・アインシュタインが、三つの論文を公表したのですが、それぞれが当時の科学の常識をくつがえす偉大な内容だったのです。それからちょうど100年、ユネスコは今年を世界物理年として、その偉業を称えています。プラネタリウムでは、三つの論文のひとつ、特殊相対性理論からはじまった現代宇宙モデル構築の歩みをアインシュタインの半生とともに紹介します。そして、近代戦争の悲劇に巻き込まれていくアインシュタインと、彼が愛した日本との数奇な運命をたどりませう。

寡黙な少年期

アルベルト・アインシュタインは19世紀の終わり、1879年ドイツの小都市ウルムという街に生まれました。両親はユダヤ系ドイツ人です。アインシュタインは言葉話すのが遅く、両親はかなり心配したそうですが、少年になっても人と交わることより一人であることが多い口数の少ない少年だったそうです。彼は少年時代に、光とおなじ速さで飛んだら、光はどう見えるのだろうか、という疑問を持ち、その答えを探し続けた、とされています。

特殊相対性理論

$E=MC^2$ 相対性理論はわからなくても、この公式は見たか聞いたことがある、という人は多いのではないのでしょうか。19世紀の末、当時はニュートンの万有引力の法則がこの宇宙を支配する法則として確立されていました。その宇宙モデルは太陽を中心とした3次元の空間と時間が無限に続く、絶対時間、絶対空間と呼ばれる座標で定義されていました。しかし、光はその支配を受けず、説明がつかないものだったのです。アインシュタインは1905年に26歳という若さで、しかも独学にちかいかたちでこれを説明する理論を考え付いたのです。それは、光の速度を基準にして絶対時間、絶対空間を否定した時間と空間が一体となった世界です。絶対をはずすと、基準はそれぞれの立場で相対的に変わります。それで「相対性」理論と名づけられているのです。その結論はおどろくべきもので、

運動する物体はちぢむ

運動する物体は重くなる

運動する物体は時間が遅れる

しかも物質とエネルギーはお互い極限状態では変わりうるものであることを予言しました。それが $E=MC^2$ (Eはエネルギー、Mは質量、Cは光速) なのです。

一般相対性理論

1905年に発表された理論は、物体が等速直線運動をする場合に限られていました。現実の世界ではみななんらかの力を受けて、加速度運動をしています。彼は相対性理論を加速度を受けている場合にも当てはまるように拡張を試みます。それが1912年に発表された、一般相対性理論です。

アインシュタインは現実の世界で受ける加速度とは、重力であることを意味する、と考えました。これを「等価原理」と呼びます。等価原理により加速度と重力は働きは同じとして考えるとニュートンの万有引力の法則と加速度の法則は一つにでき、引力

は物質が空間を曲げることで起こされる加速度運動であることを説明しました。これは現実の現象としてみることはきわめて難しいのですが、アインシュタインが予言した現象のうち、太陽のような大きな質量の近くを通る光の道筋が曲がる、と言う現象が1919年の皆既日食で確かめられました。

日本を愛したアインシュタイン

1922年、アインシュタインは約6週間にわたり、日本に滞在します。当時の日本は近代化を進めて西欧文明を取り入れつつも、まだ古い日本の風景や体質も残っていました。そんな西欧にはない自然とともにあゆむ日本人との交流が、彼が理想としていた世界を日本が築き上げられるのではないかと、の期待へとつながっていきました。

二つの世界大戦

アインシュタインが生まれた時代は、二度の世界大戦の時代でもありました。戦争が起こるたびに科学が兵器に応用され、多くの人々が犠牲となりました。彼自身、ユダヤ人だったこともあり、いやがおうにもその渦中に巻き込まれていきます。1933年にドイツにヒトラー政権が誕生すると、ユダヤ人に対する迫害がひどくなり、彼もアメリカに移住することになります。

科学がもたらす光と影

1939年に第2次世界大戦が始まります。アインシュタインは移住先のアメリカで、ドイツの原子物理学者が核分裂反応に応用した兵器の開発に協力している、といううわさを聞きます。ヒトラーが核兵器を手にするなら、それを使わせないためにアメリカも開発をするべきだ、という趣旨に賛同し、彼のサインの入った手紙を、当時のアメリカ大統領に送ります。平和主義者の彼が犯した矛盾がその後、広島、長崎の悲劇へとつながった、と批判されたエピソードです。

世界平和への夢

戦争が終わると、核兵器がもたらす人類滅亡の危険をいち早く理解し、核廃絶運動と世界平和のための国際政府樹立へと動き出します。イギリスの哲学者、バートランド・ラッセルと連名で出された、ラッセル・アインシュタイン宣言は人類滅亡への警鐘と科学者が世界平和の力になることをうたったものです。彼は「私は科学が無知と戦争に打ち勝つ日が来ることを信じます。」という言葉を残しています。

博物館カレンダー

2005年8月の行事

8	3	水	☆	寄贈品コーナー「平塚の祭半纏」(9/6)	展示室
8	4	木	◎	星を見る会「夏の星空」 天体観察会「スターウォッチング調査」	屋上・科学室
8	5	金		古文書講読会	講堂
8	6	土	○ ◎	君もプラネタリアン ひらつか囃子太鼓フェスティバル	プラネ室 文化公園
8	7	日		古代遺跡を探す会	野外
8	11	木		石仏を調べる会	特研室
8	12	金	◎	天体観察会「流星群」 舞台裏探検ツアー	月光天文台 博物館受付
8	13	土	◎	漂着物を拾う会 地質調査会 天体観察会「流星群」	虹ヶ浜 野外 月光天文台
8	14	日	◎ ◎ ◎	水辺の楽校生きもの調べの会 ろばたばなし 特別展記念講演会「まつりとは何か」	水辺の楽校 展示室 講堂
8	17	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研室
8	18	木	○ ◎	展示解説ボランティアの会 体験学習「地形模型」 星を見る会「夏の星空」	特研室 科学室 屋上・科学室
8	19	金	○ ◎	体験学習「地形模型」 舞台裏探検ツアー	科学室 博物館受付
8	20	土	○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	自然の新聞を作る会 君もプラネタリアン 学芸員による特別展解説 アケアマリコンサート 豊田ばやしの実演とお祭太鼓体験 文化公園ツアー(美術館と合同)	野外 プラネ室 展示室 プラネ室 文化公園 文化公園
8	21	日	◎	学芸員による特別展解説	展示室
8	24	水		相模川の生い立ちを探る会	屋外
8	25	木	◎	石仏を調べる会 星を見る会「夏の星空」	特研室 屋上・科学室
8	26	金	◎ ◎ ◎	古文書講読会 舞台裏探検ツアー 文化公園ツアー(美術館と合同)	講堂 博物館受付 文化公園
8	27	土	○	体験学習「縄文土器を作ろう」 地質調査会 星まつりを調べる会 空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	科学教室 特研室 特研室 講堂 講堂
8	28	日	◎	プラネタリウムで宇宙を学ぶ会 民俗探訪会「展示見学」	プラネ室 講堂

<展示とプラネタリウム>

☆夏期特別展記念行事

◎ひらつか囃子太鼓フェスティバル

日時：8月6日(土)午後1時30分～午後4時30分
場所：文化公園(博物館前)

◎記念講演会 講師：小川直之氏(國學院大学)「まつりとは何か」

日時：8月14日(日)午後2時～午後4時
場所：博物館講堂
参加：自由

◎豊田ばやしの実演とお祭太鼓体験

日時：8月20日(日)午後1時30分～15時
場所：文化公園(博物館前の広場)

◎学芸員による展示会説

日時：8月21日(日)午後1時～2時

☆寄贈品コーナー「平塚の祭半纏」

☆夏のミニ文化祭

2階の情報コーナーで高校生、大学生の研究成果を展示。

◎「湘南海岸の植物たち」東海大学教養学部藤吉研究室

期間：～8月19日(金)まで

◎「ま水にすむ貝の研究から」向上高校生物部

期間：8月23日(火)～9月10日(土)

☆プラネタリウム

◎「8月の天文現象」

投影日：8月6日(土)午後2時
観覧料：100円(中学生以下無料)

2005年9月の行事

9	1	木	○	展示解説ボランティアの会	特研室
9	2	金		古文書講読会	講堂
9	4	日		古代遺跡を探す会 地質調査会	講堂 科学室
9	7	水	☆	博物館実習(～9/14) プラネタリウム「学習投影」	科学教室他 プラネ室
9	8	木		石仏を調べる会	岡崎
9	9	金		古文書講読会	講堂
9	10	土	◎ ☆	漂着物を拾う会 地質調査会 プラネタリウム「フリークプラネタリウム」 (～10/2) 天体観察会「月面」	虹ヶ浜 野外 プラネ室 屋上・科学室
9	11	日	◎	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
9	15	木	○ ☆	展示解説ボランティアの会 寄贈品コーナー実習生(10/30)	特研室 展示室
9	16	金		古文書講読会	講堂
9	17	土		星まつりを調べる会	野外
9	18	日	◎	ろばたばなし 民俗探訪会	展示室 屋外
9	21	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研室
9	22	木		石仏を調べる会	岡崎
9	24	土		空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	特研室 講堂
9	25	日	○	プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ室

☆：展示(無料)、プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

◎「アインシュタインの夢」

投影日：～9月4日(日)までの土・日・水・木曜日の午前11時
と午後2時

観覧料：100円(中学生以下無料)

<参加者募集>

◎星を見る会「夏の星空」

日時：4(木)・18日(木)・25日(木)の午後7時～8時30分

参加：自由参加

場所：博物館屋上

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時：8月13日(土)午前9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：8月14日(日)(1)午後1時20分～(2)午後3時～

場所：展示室・民家

◎雑貨団・シアトリカル・プラネタリウム Vol.12

銀河のヒータービーター～The Heater Beater of our Universe～

「だれだって きっとみんな さがしてる」

日時：8/26(金)14:00 & 18:00 開演(開場は開演の30分前)

入場無料

場所：平塚市博物館プラネタリウム・全2回公演

予約方法：8/2(火)より博物館に電話で申し込み。

公演2日前またはは定員になり次第予約締め切り。

◎プラネタリウムで宇宙を学ぶ会

「アインシュタインと相対性理論の時代」

1905年にアインシュタインが発表した相対性理論、宇宙の常識が

すっかり変わっていく時代の流れをお話しします。

日時：8月28日(日)午後3時30分～4時30分

参加：自由参加

場所：プラネタリウム

※常設展・特別展ともにボランティアによる展示解説が

受けられます。

あなたと博物館 31巻5号 通算344号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/